

桑村小学校応援団会議！

桑村小学校 令和5年6月26日 No,12 文責 渡邊

「わたしの主張発表」 大勢の町民を前に、堂々と発表しました！

令和5年6月25日(日)に、函南町制施行60周年記念事業「函南町青少年健全育成大会」が開催されました。その中で「わたしの主張発表」があり町内の小学生、中学生、そして、田方農業高校の高校生による発表がありました。

桑村小学校からは、第6学年の熊木楓太さんが「環境について考えていること」をテーマに、たくさんの町民の前で堂々と発表しました。以下にその内容を紹介します。



【ステージで発表する楓太さん】

環境について考えていること

桑村小学校 六年 熊木 楓太

皆さんは、日本の環境についてどう思いますか。最近、異常気象と言われる現象が数多くあります。五月なのに真夏のような暑さの日もあれば、急に寒くなる日もあります。日本から四季がなくなってしまうのではないかと心配になりませんか。僕は、この異常気象は、地球が悲鳴を上げているような気がします。

環境問題について考えたきっかけは、海に行った時、砂の中に小さなプラスチックがたくさんまじっていることに気付いたからです。調べてみると、大きさが五ミリメートル以下のプラスチックをマイクロプラスチックといい、自然の中では分解されず海に蓄積し続け、海洋生物や人間に様々な問題を引き起す地球にとって良くない物だと知りました。

また、僕が十歳くらいの時、テレビで魚や生き物が、海に捨てられたストローやプラスチックの破片を鼻の穴や口の中につまらせて死にそうになっていた映像を見ました。ぼくは、(海で楽しく生きているはずの生き物たちが人間の出したゴミのせいでかわいそうだ。)と思いました。鳥などもプラスチックなどを食べて死んだり、餓死したりしていることなども耳にしました。僕は、動物や植物が大好きです。だからこそ、(何かできることはないか)と考えるようになりました。

この問題を少しでも解決するために僕にできることを実行していこうと決心しました。

心がけていることは、三つあります。

一つ目は、本や文房具、食べ物を買うときには、ビニール袋で貰わずにマイバッグを持参したり、手で持ったりすることです。

二つ目は、飲み物を飲む時にはストローなどを使わずに飲むことです。

三つ目は、食べ物を食べる時は、プラスチックのフォークやスプーンなどをできるだけ使わないようにすることです。

このようなことを一人一人が意識すれば、マイクロプラスチックを減らせるかもしれません。

しかし、海にあるゴミはマイクロプラスチックだけではなく、海にはバイクや車などの部品、そしてバイクそのものなどの粗大ゴミが、捨てられています。また食品の容器、包装袋なども捨てられています。これらのゴミを集めるためには、海洋ゴミの深刻さを一人でも多くの人に伝え、知ってもらうことが大切だと思います。そして、クラウドファンディング等を利用して集めたお金で、海面に浮いているプラスチックゴミを回収できる機械や、プラスチックゴミの流失を防ぐものなどを設置して処理をすればいいと考えます。

また、海の底に沈んでいるゴミは、漁師さんの網にゴミが引っ掛かったとき、個々で捨てるのではなく、行政が回収や運搬処理などの費用を負担する仕組みができたらすてきなことだと思います。これらの方法はお金がかかりますが、地球に住んでいるみんなが地球をまもるために同じ方向を向いて、一人一人がゴミを捨てたりしなければ一年ごとにゴミの量は減ると思います。

僕は将来、このような活動に取り組んだり、ゴミを回収できる機械などを作ったりして、環境破壊につながるゴミが無くなるような活動ができる人になりたいと思っています。

今できることは小さなことかもしれませんが、でも、人と地球が譲り合い、共生していける未来を作りあげていくために、できることを一生懸命取り組みます。

そして何より、自然豊かなことは、人間にとっても森林や動物たちにとっても幸せなことだと感じています。様々な視点や立場から環境について考え、地球にも私たち人間にも優しい環境を目指していきたいです。

今回の発表に向けて、学校応援団(本校コミュニティ・スクール)の鈴木さんが丁寧に指導してくださいました。また、6月23日(金)の昼休みには、楓太さんを応援する子供たちが体育館に集まり、楓太さんの発表を聴いた後、一人一人が楓太さんに応援メッセージをおくりました。



【体育館で発表する楓太さん】



【応援の言葉をおくる桑っ子①】



【応援の言葉をおくる桑っ子②】

楓太さんは大勢の町民を前に堂々と発表でき、すばらしかったです。私も表彰の関係で当日ステージに上がったのですが、楓太さんの応援に駆けつけてくれた本校児童から「校長先生、表彰式ではとても緊張していたね」と指摘されました。ステージで発表することがいかにたいへんなことなのかを私自身感じ、あらためて楓太さんの発表のすばらしさを感じさせられました。

これまで発表のサポートしてくださった鈴木さん、本当にありがとうございました。そして、楓太さんを応援してくださった桑っ子の仲間たち、ありがとう！楓太さんの努力とみんなの温かな応援が強く感じられ、とても幸せでした。

これからも自分の可能性を信じ、歩んでいきましょうね！